

施餓鬼 鵜来島にぎわう

宿毛市 70人旧交温める

【宿毛】宿毛市の鵜来島でこのほど、死者を供養する盆の伝統行事、施餓鬼が4年ぶりに行われ、島内外



島民や帰省者らの盆踊りなどでにぎわった施餓鬼

(宿毛市の鵜来島)

から集まった約70人がこれまで亡くなった島出身者をしのんだ。

鵜来島の施餓鬼ではタオルや手ぬぐいが使われるのが特徴で、元々は遺族が供養のお礼に用意していたものだという。人々は口説きの歌に合わせて打ち鳴らされる太鼓の周りを盆踊りするなどしながら歩き、踊る人々の肩にタオルが掛けられる。踊りは何種類もあるといい、連日踊り明かした年もあったそう。

今年が集落活動センターが中心となって島にゆかりのある人に呼びかけ、高知県立大学の学生もボランティアで駆け付けて12日夕に開始。旧小中学校前の広場に色とりどりのタオル約100枚が用意され、太鼓の回りを何周も歩いて踊る人々の肩に島出身者がたくさんの

タオルを掛けていった。

この日はカラオケ大会なども催され、島は往時をしのばせるにぎわいに。集まった人々は思い出話に花を咲かせ、旧交を温めた。

山内直美さん(71)は同市西町2丁目IIは「島の人が少しでも明るい気持ちになつてほしい」。同センターの田中辰徳会長(62)は「大切な行事。来年以降も実施して守っていきたい」と話していた。(坂本 出)